



Vol.142

CONTENTS

2-3 4年見学旅行記

3-5 タイ留学報告

6 高専祭

7 新任教員紹介
行事予定

見学旅行



4年 情報工学分野

とない いっせい

斗内 一誠

私たち情報工学分野は、5日間の見学旅行で東京と豊橋と伊勢を訪れた。1日目は羽田空港に集合。その後はバスに乗り日本科学未来館へ向かった。そこでは先端科学技術をはじめ地球の自然や宇宙について様々な展示を通して学ぶことが出来た。また見どころの「ジオスコープ」と呼ばれる巨大な球体のディスプレイには地球が映し出されており、とても圧巻だった。次に向かったのはチームラボプラネッツ。非日常的な体験を楽しむことができ、まるでアート作品の中に入り込んでいような没入感を味わえた。夜にはグループで渋谷を

プラプラ探索して焼肉を食べた。

2日目は国立科学博物館を訪れ、予定されていた時間内では全て見て回ることが難しいほど展示物が充実しており大満足だった。そして浅草仲見世通りで昼食をとり、東京スカイツリーからビル群を望み、この日はここで解散。その後は丸の内を練り歩き、情報科生として秋葉原の電気街で洗礼を受け、池袋でリアル脱出ゲームの店に入り想像以上の難しさに危うくホテルに戻れなくなりそうになった。

3日目は新幹線で豊橋市へ向かい、豊橋技術科学大学を見学した。大学内を案内していただき、研究室では、量子コンピュータや人間と共存する電子ロボットについて学んだ。昼食は学食を利用して、自由時間には学内を探索して規模の大きさを感ずることが出来た。現在高専で学んでいる技術をさらに応用した先の世界を知ることができ、貴重な経験となった。

4日目は伊勢神宮を訪れた。天候には恵まれなかったが、長い歴史が織りなす独特な雰囲気を感じることができた。その近くにあるおかげ横丁では何を食べても美味しく、特に「赤福」がオススメ。

その後は鳥羽水族館を訪れて、見学旅行の全日程が終了した。

5日目は朝からクラス自由解散。新幹線で関西へ移動して友人たちと3日間京都と大阪を観光した。大阪ではグリコで有名な道頓堀でキャッチの度に何度も捕まり、空腹に勝てず付いていくと謎の居酒屋に導かれ、とても怪しい前菜とたこ焼きを食べた。その結果、少し高い勉強代を払うことになったが良い思い出となった。

この見学旅行を通して、初めて訪れた土地で多くのことを学び、また様々な体験が得られた。これらを進学・就職に活かし、残りの高専生活も惜しむことなく楽しめたらと思う。

4年 機械工学分野

こやま たけし

小山 偉士

新型コロナウイルスが流行し、今年度も研修旅行が中止する可能性があったが、無事に実施され、3年ぶりの研修旅行となった。4年機械は神奈川県、滋賀県、京都府で4社の企業を見学した。どの企業も親切に企業案内をしていただき、専門のことだけではなく技術者に求められることなど教科書には載っていないことを学ぶことができた。企業についてインターネットで調べたり企業の講演を聴いたりすることがあるが、実際にその場に赴いて現場を見学しなくては分からないことがあることを知った。私が特に印象に残った企業は京都のセラミックを取り扱っている企業で、セラミックという素材が自分の想像以上に幅広い分野で使用されていること、優れた特性があることを知ることができた。セラミック製のエンジンがあると知ったときはとても驚いた。そのほかに創業者の格言に触れて技術者として何を大切にすべきかを考えることもできた。

自主研修では友達と横浜と京都の市街を回った。北海道にはない風景を楽しむことができ、そこでもしか食べられないものも食べることができた。特によこはまコスモワールドの観覧車から見た景色が今でも忘れられない。また、北海道の距離の感覚と本州の距離の感覚が全然違うことも印象に残った。

この研修旅行でクラスメイト一人一人が様々な思い出や経験を得ることができたと思う。今回の研修を活かして自分たちの進路選択に活かそうと思った。

この研修旅行でクラスメイト一人一人が様々な思い出や経験を得ることができたと思う。今回の研修を活かして自分たちの進路選択に活かそうと思った。



見学旅行



4年 建築学分野

やまぐち とき

山口 杜基

初日は快晴の東京。非常に良い気候は見学旅行の気持ち良いスタートを感じさせるとともに本州の蒸し暑さを知らしめられました。葛西臨海水族園に国立新美術館、東京スカイツリーを訪れ、東京を満喫しました。

2日目は奈良。東京からの長距離移動ではありませんでしたが、鹿に癒されながら各お寺を見学しました。訪れたタイミングが非常に良く、他の旅行者が少なく貸し切りのような状態で見学することができました。ツアーガイドさんも「この時期ではすごく珍しいことです」とおっしゃっていて、偶然ですが貴重な経験をすることができました。

3日目は京都での自主研修。これまで集団で行動していたところ、それぞれの行きたい場所へ計画を立て見学しました。個人的に、伝統的な文化が街並みに色濃く残る京都での自主研修は、非日常な雰囲気や前面に感じて思いつき楽しむことができました。天候や、長距離移動などで3日目を終えるころには皆くたくでしたが、充実した2日であったと感じました。

4日目は兵庫。姫路城を訪れたのち、半日自主研修を行いました。この日もとても楽しい1日でしたが、4日分の疲れが出たようでその日の夜は早い時間から熟睡してしまいました。

最終日は竹中大工道具館を見学したのち、各自解散。本州を少し旅行してから北海道へ、とも思いましたが週明けには学校が始まってしまったため断念。自分は家に帰ったのち、疲れのためか半日以上寝てしまったようです。2022年の見学旅行は皆が期待に胸を膨らませていたイベントでした。特に新型コロナウイルスによって3年ぶりの実施であったためです。このような行事を実施できたことに、感謝すると同時に、来年度以降の見学旅行も無事に行い、4年生時の楽しい思い出が残せればと思います。

4年 情報工学分野 イマム カイリ ルビス

タイ留学報告

実は、私はすでに日本へ留学し、釧路高専に通っている。しかし、タイに留学する機会があると聞いて、これはもつと多くのことを経験できる絶好のチャンスだと思った。ここでの「経験」とは、勉強だけでなく、人間関係や文化なども含んでいる。

私は3週間ほどタイのキングモンクット工科大学ラカパン校(KMITL)に留学してきた。どんな研究をすればいいのか、何も知らないで行くのは少し大変だった。しかし、KMITLの先生の指導のもと、最終的には機械学習の基礎について学び、留学期間の最後には小さなプロジェクトのようなものを行うことができた。

タイでの体験は、その文化を体験することなしには完了しない。なぜなら、私がインドネシアや日本で慣れ親しんできた文化とは全く異なるからである。挨拶をするときの仕草や、尊敬する相手に対する言葉の使い方まで違うのである。文化には食文化も含まれる。料理の提供の仕方や味も違う。タイの料理は主にスパイシーだが、少し酸味がある。

一番良かったのは、私がタイ人ではないにもかかわらず、歓迎してくれたことである。さらに、タイの主な宗教が仏教で、イスラム教である私と接触することに抵抗がないことである。むしろ、私の選択を尊重し、私に影響を与えるような決定をするときは、常に私の宗教を考慮してくれる。私が留学で得た最も重要な教訓は、「人間にはまだ希望がある」ということである。どんな背景があろうと、私たちは誰に対しても親切でなければならないこと。



タイ留学報告

5年 建築学分野

こばやし あいり

小林 愛里

外に開いた住宅を作ることができそうです。また、利用者が場所にとらわれず柔軟に用途を決められるという特徴もあります。このような特徴はタイの気候に合わせて出来上がったものですが、日本の建築にも取り入れることができそうだと思います。

タイでは寮のシャワーが水しか出ないことやトイレにトイレットペーパーを流せないことが一番驚きました。正直この環境下でも生活は成り立ちますが、衛生的に改善すべき点なのではないのかなとも思いました。学校で学生はほぼ全員iPadを持っていて学校の授業では紙とペンではなくiPadを使ってノートをとっている人が圧倒的に多かったのが印象的でした。慣れないことも多い中での短期留学生活でしたが色んな学びや楽しいことがあったのでまた機会があれば留学をしたいなと思っています。ありがとうございました。

キングモンクット工科大学ラカバン校(KMITL)で学んだ内容を高専で現在取り組んでいる卒研に繋がることを目的とし、「ルアンタイ」と呼ばれるタイの昔の家を調べ、どんな特徴があるのか学びました。例えば、階段、屋根のない移動のための空間、庇下の空間、寝室の4つの空間配置によって室内と屋外の境界線をはっきりさせない



5年 建築学分野

あらい ののか

荒井 乃々佳

タイ留学報告

私がタイに行ったきっかけは、就職して社会に出る前に慣れない他国の環境の中に身を置くことによって、少し成長した自分になりたいと思ったからです。また、日本の外に出ることでも今まで経験してきた文化や常識、言葉の壁を越えていろいろな価値観の人たちに会うことで自分の世界を広げていきたいと考えたことも大きな理由の一つでした。

実際にタイに行ったことによって経験できたことは日本で普段生活していく中では絶対に経験できないことばかりで私自身、とても良い体験だったと考えます。特に、言葉が通じない中で身振り手振りをうい、なんとか伝えようと奮闘し、身に付けた伝える能力は、この先どこで誰に会っても自分の言いたいことを相手に伝えることができると思います。また、多くの人と関わることができたこの経験によって、文化、宗教、考え方の人に出会うことができたので、いろいろな多様性に触れあうことができました。

最後に、タイで得られた様々な経験は、これから私がどこに行っても胸を張って自慢できることの二つであり、自信に繋がりました。私は春から社会人になりますが、タイで経験したことを仕事にも何か活かしていくことができたいなと思います。



タイ留学報告

泰日工業大学への留学で人生の価値観が変わりました。

4年 情報工学分野

いずみ こうき

泉 航輝

まず、大学では高専の授業で学ぶことのできないビジネス経営についてのポイント情報工学の最先端である深層学習についての講義があり、刺激的な学習をすることができました。また、デジタル機器を自由に使える受講スタイルにはとても驚きました。講義はほとんどが英語で行われるのでリスニング力の向上にも繋がりました。

タイは外食文化が盛んで、街には至る場所に屋台や食堂があるので食べ物には困りませんでした。何か困ったときには近くのコンビニに駆け込むこともできました。

そして、一番衝撃を受けたのは現地の人々の温かさでした。特にクラスメイト達は皆フレンドリーで、毎日談笑しながら共に昼食を食べました。講義も協力しあって臨んだり、放課後もショッピングモールまで出掛けたりと短期間とは思えないほど友情を深めることができました。彼らとの交流は今も続いており、大切な友達を作ることができました。そして、彼らの明るい前向きな性格に触れ、どこか閉塞感を感じていた留学前の人生の価値観が前向きに、肯定的になりました。

当初不安もあった留学でしたが、最終的に唯一無二の体験になりました。



タイ留学報告

5年 情報工学分野

いずみや はるき

泉谷 春樹

私の留学先は泰日工業大学(TNI)です。志望した理由としては日本企業が協力して設立した大学であり、日本との繋がりが強く、現地の学生ともコミュニケーションが取りやすいのではないかと考えたからです。

実際にクラスへ参加してみると日本人よりも日本の文化に慣れ親しんでいると感じました。アニメ、漫画、コスプレ以外にも百人一首など日本の伝統文化も目にしました。日本の学生にとって留学しやすい大学であると思います。しかし、留学が簡単ということではないです。授業は全て英語で行われましたし、学生間でも英語を用いていました。おそらく一番記憶に残ったのは英語によるプレゼンテーションです。内容としては機械学習に関して授業内で扱った内容と、新しく自分で調べた内容を組み合わせ順序立てて説明するようなものです。夜には現地の学生と共に通話をしながら助け合いプレゼンを完成させました。他の授業でもJAVVAの授業では教え合い、英語で説明する力も身に付いてきたのではと感じました。

帰国の日が近づいてくると少し寂しく感じました。慣れ親しんだ日本に帰れますが、クラスの皆との別れが悲しかったです。空港にはクラスの皆が見送りに来てくれました。「私は絶対に泣かないぞ」と心に決めていましたが、結局皆で泣いてしまいました。その時また留学に挑戦しようと思った決意しました。



TNI



TNIの学祭



マーケットにて



FESTIVAL

高専祭



一般公開は私たちの想像以上の人たちが参加してくださり、学祭を盛り上げる大きな理由となった。コロナ禍での高専祭の開催が結果として例年とは違う新たな高専祭を開催できたことは今年の高専祭を成功に導いてくれた。来年度は反省を活かしさらに釧路高専として一丸となって高専祭を盛り上げたい。

各展示では高専生らしさのある展示や企画から、学生の作品か？と目を疑うほどのクオリティの高い作品の数々に心を動かされた参加者も多かったと思う。

フリーパフォーマンスでは高学年の参加だけでなく低学年からの参加もあり、学年の壁を越えて完成度の高いパフォーマンスが会場を盛り上げた。バザーではコロナ対策や食中毒対策など様々な制限のある中、各団体が真剣に話し合い問題なく無事に終えることができた。

フリーパフォーマンスでは高学年の参加だけでなく低学年からの参加もあり、学年の壁を越えて完成度の高いパフォーマンスが会場を盛り上げた。また、例年の高専祭を知らない1〜3年生の高専祭に対する期待やわくわくのおかげで例年とは違う新しい高専祭を作り上げた。

学生会長
うめつ かける
梅津 翔

この目標のために僕たちは前年度から長い時間をかけて準備を進めてきた。初めは学生会だけの準備だったが準備を進めていく中で、多くの学生や先生方、企業の方とともに一丸となったこととこの目標を、この目標以上の高専祭を開催できた。

「コロナ前の高専祭」



新任教員 紹介

9月より釧路高専に英語教員として赴任しました菅原崇(すがはらたかし)です。専門は英語学・言語学、日英語のオノマトペ(擬音語・擬態語)を研究しています。

私、生まれや前職は道外ですが、20歳で北海道大学文学部に編入学し、長く北海道で学生時代を過ごし、釧路を含めた様々な道内の先生方の助けを借り博士号まで取得いたしました。その点で、北海道という地は私にとって特別な地であり、今回縁あって本校に赴任できたことを光栄に思っております。

本原稿執筆時点で、すでに授業等で釧路高専の学生さんと交流して参りましたが、彼らは真面目であったり誠実であったりと、非常に好感を持てるものでした。

その一方で、「英語」という観点から学生さんを見た場合、理系特有の苦手意識が先行するためか、自身が持つ多くの可能性に気付いていない、という印象を受けました。それはまるで、恵まれた体格やポテンシャルを持っているのに、種目のルールを把握していない、もしくは練習不足でベストパフォーマンスが出せないアスリートを見るようで、正直もったいない、と感じるとともに、彼らの伸びしろに大いに期待が持てるとも感じました。今後、他の英語教員の方々と連携し、彼らの力を最大限に引き出せるよう自分なりに工夫を凝らし、本校の英語教育に貢献したいと考えています。

一般教育部門(文系)英語 准教授

すがはら

崇 たかし

釧路高専 行事予定

R5.1～R5.3

January
1月

12月26日(月)～1月6日(金)	冬季休業
9日(月.祝)	開寮日
14日(土)	企業ガイダンス
18日(水)～19日(木)	後期補講期間、CBT実施予定日
21日(土)	本科推薦選抜
28日(土)～29日(日)	プレコン全国大会

February
2月

12日(日)	本科学力選抜
13日(月)～14日(火)	専攻科2年試験・補習・補講・再試験期間
13日(月)～16日(木)	本科5年後期末試験
13日(月)～17日(金)	専攻科1年・本科1～4年後期末試験
18日(土)	5年退寮日(午前)
18日(土)～19日(日)	寮居室替え
21日(火)	1～4年合同HR
22日(水)～3月1日(水)	後期補習・再試験期間
26日(日)	本科学力選抜(追試験)

March
3月

6日(月)	1～4年学年末再試験時間割揭示
8日(水)～10日(金)	1～4年学年末再試験
11日(土)	1～4年閉寮日
13日(月)～31日(金)	学年末休業
15日(水)	卒業式(第54回)、 専攻科修了式(第18回)